

芝浦工業会会報

第35号

2015(平成27)年3月1日発行
芝浦工業会 広報委員会
東京都港区芝浦3-3-6

芝浦工業会定期総会開催される

平成26年11月8日(土) 母校大講義室にて開催

会員を更なる増員して活性化を図って行く。

平成26年11月8日母校の大講義室にて芝浦工業会定期総会が開催されました。

参加者は50名を超えました。金子会長をはじめ母校の新任の齋藤校長、仲道副校長の挨拶と近況報告を頂いております。

司会の玉真副会長の開会宣言により総会が開始されました。過年度決算及び平成26年度予算案・会則改訂が原案通り承認されました。

総会審議事項の詳細については、6月1日発行の会報第36号でお知らせします。

1 金子会長挨拶の要旨

当総会は2年毎に開催され、今回は母校創立125周年記念の平成24年11月に開催された。

本年10月に開催された母校の弟燕祭では昨年に引き続き、会長賞を設定し、現役生徒の課題研究の成果発表に対して最優秀チームを表彰した。当会では2か月に1回幹事会を開催し、会の運営方針などを決め、活動している。当幹事のいない卒業年度も多く、新たな幹事を補充し、多くの幹事の活動により芝浦工業会を活性化すべく努力していきたい。

2 齋藤義夫校長の祝辞

昨年4月より新校長に着任しました。まず初めに校庭の人工芝がきれいなのが目に飛び込んできました。



金子会長



齋藤校長



仲道副校長



司会の玉真副会長



議長と書記

校舎の耐震工事がまだ終わっていないのでこれから力を注いで行きます。

SSHの活動は第3期に入り、200校が参加して当校は先導的な役割を果たしています。国際交流ではタイ・シンガポール・フィリピンの学校と生徒の短期留学などを通じて一緒に授業を進めています。これからも一層力を注いで行きます。

3 仲道嘉夫副校長の挨拶

今年の4月から副校長に就任しました。環境整備の面では2年前に校庭を人工芝にし、耐震補強については新たに2号館と4号館の補強工事を実施する予定です。身障者用のトイレ新設し、LED照明をグラウンド側と体育館側にとりつけました。一方近隣地域の方々を対象にしてグラウンドを開放しています。

4 記念講演会 齋藤義夫氏

(東京工業大学教授・母校校長)

齋藤校長の略歴紹介と「ものづくり教育を振り返って」の講演がありました。

東工大の前学長のことばを引用して、「技術者の前に人間であれ。」「人間はものを作って豊かになれる唯一の動物である。」等、有意義なお話がありました。



齋藤校長の講演会

芝浦周辺散策

恒例の総会前の周辺探索を行いました。

今回は田町より徒歩圏内にある芝公園周辺を周りました。当日はあいにくの霧雨が降る肌寒い陽気でしたが、前回とほとんど変わらない方々の参加を得ることが出来ました。

田町駅前に10時30分に集合を頂き、11時に出発しました。港区福祉センター前より10分ほどで芝公園の入り口に到着しました。

和式の庭園を抜けると広い芝生の広場に出ます。左側をみると、目の前に東京タワーがそびえ立っています。さらに歩を進めると、徳川家康を祭る東照宮にたどり着きます。有名な日光東照宮の規模には比べようもありませんが、落ち着いた佇まいでした。

隣には今回の最終目的地である大本山芝増上寺があります。広々とした境内の玉砂利を踏みしめながら本堂に到着しました。徳川家の菩提寺である増上寺には墓石もあり、有料にて参拝することも出来ました。



七五三のお祝いで訪れた家族づれの方も見受けられ、華やいだ雰囲気を楽しむことが出来ました。境内を探索後、帰途につきました。

懇親会

恩師と同期生、同窓生の旧交を温める。

各科毎の記念写真を撮りました

第1会議室に移って懇親会が開催され、元・現教職員と会員の皆様との親睦がなされました。

特に当校の卒業生でかつ、当校元教員の山根先生も、遠く隠岐の島から参加され、元気に楽しく交歓されていました。

総会は2年に1度です。会員の皆様!! 来年も是非参加して母校の発展と同窓会の活性化について語りあいましょう。



電気科・電気電子分野



工業化学科・応用化学分野



機械科・機械システム分野



建築科・建築デザイン分野



教職員



電子科・情報システム分野

総務委員会報告

総務委員長 伊藤 博

芝浦工業会における総務委員会は、以下2つの大きな役割があります。

1番目は、母校卒業生で構成する芝浦工業会が「母校、母校卒業生、母校PTAとの連携を緊密に行い、社会に貢献する活動。」の旗振り役。

2番目は、芝浦工業会の活動を担う各委員会（財務、データ管理、広報）と学校事務局とのつなぎ役とし、様々な活動を円滑に行う為の潤滑剤。

今年度の総務委員会活動の主なものは

1. 芝浦工業会幹事会の開催運営

5月、8月、10月（臨時）、12月、2月に幹事会を開催。

2. 芝浦工業会定期総会の開催運営

2年に一度の定期総会を昨年11月8日（土）母校大講義室にて開催。

3. 母校行事への参加

10月に行われた母校文化祭へ広報委員会と共同で

・母校の歴史の展示。

・文化祭時に行われた課題研究発表への芝浦工業会会長賞の授与。

4. 企画会議の新設

幹事会の下支え機能として、幹事会を効率的且つ円滑に行う為に新設。

我々芝浦工業会は、今後も様々な活動を継続しなければなりませんし、新たな活動企画と実行が必要です。

是非、卒業生の皆様のご支援と協力、更に芝浦工業会活動への参加をお願い致します。

財務委員会報告

財務委員長 宇口 俊夫

財務委員会は、金銭の処理だけではなく、その中から見えてくるものを把握し、会費の有効活用に役立てたいと考えております。

一例として、当芝浦工業会の会計に採用している勘定科目（お金の収入支出を管理する科目）の名称、特に支出科目の名称を、各委員会毎にその活動内容又は支出内容がわかる様な名称にしています。それゆえにそれらを使って作成された、予算は財政面から見た各委員会の活動計画を表し、支出の実績は各委員会の財政面からみた活動実績を表します。

したがって財務委員会は、金銭の処理に合わせて各委員会毎の支出実績を予算と対比させた資料（年度予算実行状況）を適宜作成し、各委員会の活動状況を定例幹事会に報告し活用しております。

財務委員会は、これからも「開かれた分かり易い財務運営」を心掛けて行きたいと考えています。会員皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

広報委員会報告

広報委員長 小林 恒男

玉真前委員長のもと、昨年9月1日付で会報34号を発行いたしました。その後、10月1日より広報委員長を引き継ぎました。

新体制で広報委員会を3回開き、以下を発議し幹事会の承認を得ました。

因みに広報委員は、玉真正美（38年電通卒）、山崎勇吉（38年機械卒）、細田征彦（42年電通卒）と小林恒男（42年建築卒）の4名が実働部隊です。

1. 会報の発行は年2回の定時発行とする。発行時期は第35号（本号）は3月1日付
2. 平成27年度は、36号を6月1日付、37号は12月1日付
3. 平成28年度以降は5月15日付、11月15日付とする。
4. 35号より従来の縦書きに変えて横書きとする。
5. 34号で採用した一部カラー化を実施する。
6. 発行部数は当面従来通り7000部とする。

横書きに変更するに当たり、永年親しんできた題字を変更することにしました。旧題字は会員でありました故山田泰蔵氏（昭和21年機械科卒業）によるものです。気品があり、力強い字体を変えるのは残念ではありますが、編集方針の変更でやむを得ないと判断しました。

今後は定期刊行すべく委員一丸となって努力していく所存です。

本年は、当会のホームページのリニューアルに向け活動をしてまいります。ご興味のある方の参加をお待ちします。

データ管理委員会報告

データ管理委員長 ト部 宣行

データ管理委員会では、会員の皆さまの個人データの管理の他に会則、規程などの文書の管理も行っております。

約10年前の芝浦工業会は、会則以外に主だった規程類は存在せず、事務局の先生や特定の方だけが会の具体的な運用を理解している状態でした。

ちょうどその時分である平成15年に個人情報保護法が施行され、芝浦工業会についても民間企業と同等の個人情報の取り扱いが必要との判断に至りました。個人情報保護はデータ管理委員会のみでなく、芝浦工業会全体として取り組むべき課題であることから、データ管理委員の塚本修平氏（昭和30年電気科卒）の献身的なご尽力により、「拡大データ管理委員会」として審議を重ね、個人情報保護方針を始め、個人情報管理規程、規則規程、組織規程やそれらの下部細則を策定することができました。

今後も、データ管理委員会では更なる規程類の整備に取り組んでまいります。

リケジョ (理系女子) への方向転換から 水中ロボット研究の楽しさを知る

平成26年機械システム分野卒 近藤 那央

実は私は文系でした。しかし丁度高校受験の頃、小惑星探査機はやぶさが地球に帰還し、それを生中継で見ていた私は非常に感動しました。そこで丁度入試の日が空いていた附属高校を興味本位で受験したのです。結果として、3年間思いっきり使い倒す事ができて最高の選択でした。

吹奏楽部に所属し、パーカッションをしていました。しかし1年の後半にロケットガール&ボーイ養成講座に参加してものづくりの楽しさを知り、2年より科学部に入学しました。科学部では、卒業までに計3つの缶サットプロジェクトに関わりました。缶サットとは、空き缶サイズの中にセンサー類やパラシュートなどを詰めたもので、小型ロケットにより高度400-1000m上空から放出され、安全に降下しながらデータを取得するなど自分で決めたミッションを行わせる、模擬人工衛星と呼ばれるものです。私は常に科学部でものづくりプロジェクトに関わることができ、その間に技術スキルはもちろん、今の私のベースとなる社会でのマナーや発表資料のまとめ方など沢山のスキルと、素晴らしい先輩、後輩を得ました。

そして、高3から課題研究という事になり、以前から気になっていた水中ロボットを題材にすることにしました。12月ごろから構想し、4月から本格的にスタートしました。どうしてもペンギンの翼を触りたくて、何回かトライして水族館に協力していただける事になり、今もその関係は続いています。課題研究をする時、学校外にも広く目を向けて協力をお願いしたりする事は非常に良い経験になりますし、良い研究になると思います。

製作している中で、はばたき推進を知りたくて製作していたロボットがどんどん可愛く見えてきたり、見た人からの評価などからロボットと人との関係について興味を持ち、工学系だけでなくデザインや心理学なども学べる慶應義塾大学環境情報学部 (以後SFC) に進学を決めました。他のメンバーの多くも早くに大学が決まった事もあり、課題研究でやり残した部分をやるためにペンギンロボットの開発を再開しました。卒業式の次の日も登校し製作をし、3月末に念願の水族館での遊泳実験をしました。

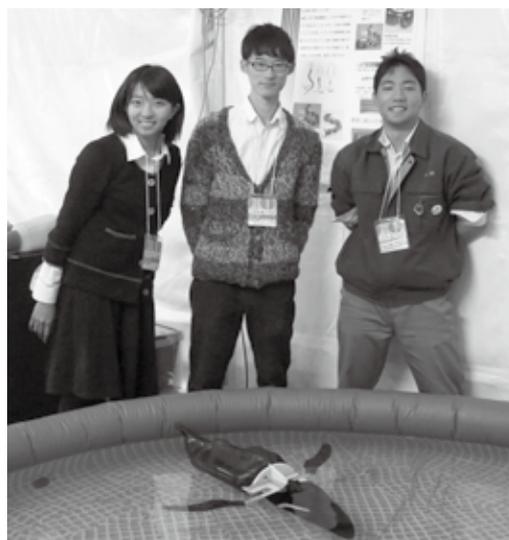
その後も続けたいと思った4人で、TRYBOTS (トライボッツ) というチーム名を冠して製作を続けています。

さて大学に入学した私ですが、当初はTRYBOTSの活動、研究室での活動と授業を頑張る。というスタンスだったのですが、勧誘された体育会航空部のグライダーの体験搭乗で空を飛びたい気持ちが押さえきれず、入部を決意しました。グライダーとは動力のない滑空機の事です。そして初っ端から何足ものワラジを履いた大学生活が始まりました。この他にも様々な事に飛びついていった

毎日でした。そんな中、TRYBOTSに、TOKYO DESIGNERS WEEKというデザイン系のビッグイベントから声がかかりました。私は前回にたまたま行って、いつかこんなイベントに出展できたらなと思っていたものですから、まさか次年度に叶うとは夢にも思っていなくて、信じられない気持ちで打ち合わせ、当日を過ごしていました。又このイベントに出展するにあたり、デザイン面などで大学の友達にメンバーに入ってもらったことで、チームが一段落した感じがしています。

長々と身の上話をしてしまいましたが、在学中から心がけている事は、面白いと思った事はまずやってみて続けてみる。知らない世界に積極的に入って学ぶ事です。1回やってみてダメだったら戻ってみて、他の所を覗く事だっていいんです。卒業してから感じる事が多いのですが、高校の時に工業を学んでいるってことは強みです。私は特に機械に直結する分野に進まなかったからなのか、特にそう思います。様々な分野があり、それぞれに専門性がある人は居る訳ですが、他分野の考えを持ち込んで新しい事を考える人というのは案外居なくて必要とされているのです。

附属生は高校時代から専門性を持つ事ができるので、同年代の人よりもできる事、知識が豊富です。だからこそ、どんどん外に出て行くと自分が思っていなかったような面白い事に出会えたり、チャンスに会えたりすると思います。ただ、私自身いろいろな事をやり過ぎていっぱいいっぱいになってしまったり、重要な基礎がおろそかになりがちなので、大学2年では自分を上手くマネジメントできるようにしていきたいと思っています。



TRYBOTSで昨年中心的に開発を担当した3人
(平成26年機械システム分野卒)

左から
近藤 那央 (慶應義塾大学)
室谷 英明 (電気通信大学)
仁科 卓海 (東京海洋大学)

TRYBOTSとは

10代5人組のメンバーからなる、生物の動きを精巧に再現する事を目的とした、ロボットいきもの工房です。

URL : <http://trybots.tumblr.com/about>

Twitterもありますよ。是非ツイートしてください。

クラス会開催

昭和38年電気通信科卒 加藤 勝則

10月4日(土)に学校近くの「百代茶屋」で昭和38年電気通信科卒業のクラス会が行われた。例年は校門前の「呑喜酌」で行っていたが、ここは土曜日は休日のところを近くに住むK君の世話で無理に開けてもらっていたのだ。今回はK君の体調が悪く参加できないため会場が変更となった。前回までほぼ2年に1回開催していたが「もうあまり先がない」という事で今回から母校の文化祭に併せて毎年開催することとなった。参加者は9名、全員が70歳を超え体のあちこちに変調をきたしている者が多い。今も働いているものもいるが何もせず好きなことをやっている者がほとんど。

健康・孫の話の他、50年以上も前の在学中の事を思い出しながら話が盛り上がった。田町の駅周辺や学校の様子が大きく変わったこと、2年生の時に行われた体育祭で工業化学科の火薬が爆発したこと、修学旅行に行き京都で1日自由行動したこと、幾何の先生が3以上しか評価をつけなかったこと、カンニングしてそれまで取ったことの高得点を得てI先生に「見たな!」と言われたことなど忘れていた事が次々と話題になって時間があっという間に経過した。クラスの仲間と年に1回逢って話をするのも今後何回できることであろうか、元氣なうちは出来るだけ参加するつもりだ。



昭和38年電気通信科卒業生
(田町・百代茶屋にて)
クラス会

義兄の旅立ちで知った 同窓会の大切さ

昭和38年工業化学科卒 齋藤 柳光



芝浦工業会のご案内をいただきながら、つい疎遠になってしまふ。クラス会ですら永く無縁で、ここへ来て卒業後50年を迎えたこともあり声がけし合うようになった。とはいえ、大半は消息も分からない。物故者も多くなった。「だからこそ同窓会」今、そんな思いが募る。

そんな中で、平成26年8月12日、昭和32年電気通信科卒業の坂井康朗さんが亡くなった。享年76。実は義理の兄で、6年先輩だ。TBS東京放送のラジオ技術部門に半生を捧げた。私との出会いはその職場で姉が見初めた婚約者ということだった。同窓であることを知ったのは後日だが、「先輩が義兄」という思いがけない果報に、以来、姉一人ということもあり実兄のように親身で頼りにしてきた。

そして義兄の葬儀、私はあらためて同窓という縁の大切さを目の当たりにする。多くのクラスメートが参列してくれたのだ。卒業31人、半世紀超の今も職業、趣味、もちろん人生さえそれぞれなのに、機会あるごとに誰言うともなしに集うという。「かけがえのない仲間、親や女房より付き合いが長い」。異口同音。手向け杯を交わしながら、小田耕一、菊川敏郎、田村敏里、徳永満の各氏と年次や科の枠を超えた同窓生として心地よく酔い、故人を偲んだ。

担任は額賀道德先生で、私も英語を教えていただいた。最近までお元気で、奥様の川柳教室に兄など数人が弟子としてお世話になっていたという。〈32電通〉同窓会の長寿を支えているのが俳句でなく川柳というのはうれしいし、大いに納得だ。そこで、末筆ながら義兄の旅読誌特選に輝いた傑作にお付き合い願いたい。

『定年後 夢見た暮らし 今ひん死』

幹事紹介

母校の卒業式と入学式

芝浦工業会会長 金子 聡
(昭和34年工業化学科卒)



例年、東工大80周年記念講堂において挙行される卒業式と入学式は、高校において最も重要な行事であるとともに、同窓会会員となる学生諸君を学校から卒業生として受け入れる欠くことのできない関門です。前号で「同窓会の今とこれから」を掲載したので、今回の特集記事に表題の様子をお知らせすることにしました。

大岡山の駅から卒業式か入学式の立て看板のある東工大の正門を通り、2011年の震災直前に新設されたモダンな図書館を過ぎて桜並木に入る直前の右手に80周年記念講堂があります。昭和34年の高校卒業式からこの記念講堂が使われてきました。2013年4月5日の桜咲く入学式の桜並木と80周年記念講堂の写真を添えます。そこでは

クラスごとの記念撮影も行われます。

3月上旬の卒業式では、母校校長と教員が控える壇上に東工大学長、学部長、事務長、PTA会長、後援会会長、同窓会会長が登壇し、列席します。校長による卒業許可者の点呼と卒業許可の宣言に続き、校長、学長、PTA会長、同窓会会長の祝辞が続き、卒業許可者からの答辞の後、管弦楽の伴奏のもとに蛍の光斉唱で式典を閉じます。

卒業式では、同窓会である芝浦工業会会長からの祝辞は、卒業のお祝いと同窓会に加わることの歓迎の辞を主体に贈る言葉を添えています。講堂の客席の半分は学生



東工大80周年記念講堂



東工大桜並木

ですが、残り半分は父兄が占めています。入学式では、国歌斉唱に始まり、校長による入学許可、来賓祝辞、そして新入生誓いの言葉で終わります。その時期は、必ず桜満開で、桜並木は一般の方にも公開されています。

濫読（乱読）のすすめ

昭和42年機械科卒 伊藤 博



ふとしたはずみで15年ぶりに再開したゴルフと釣りも好きだが、読書が一番である。何処でも1人で楽しめるし、何よりも人に迷惑を掛けないのが良い。

ではどんなものを好むのか、特定の作者とその近縁分野やある年代の本に拘る方もいるだろうが、自分の本棚を眺めると種々雑多、人様に俺の所蔵本は凄いだろうとはとても言えた代物ではない。

今まで読んだ中から印象に残る本の題名を挙げると、「ながい坂」、「さらば星座」、「三屋清左衛門残日録」、「しろばんば」、「プリズンホテル」、「幻影の時代」になる。順に記すと、「山本周五郎」、「黒岩重吾」、「藤沢周平」、「井上靖」、「浅田次郎」、「D. J. ブーアスティン」といった作者たちだ。

読書は、何時も一気読み。1年の内、何回かは1冊を読み終わるまで夜通し読み続けることがある（嫁さんには都度怒られる。）。濫読（乱読）で何か良いことはと言えば、何かを書く際に言葉と語句に注意する習慣がついたことだろうか。社会人になれば、誰でも何等かの報告書や企画書等を書く事がある。私の場合、緊急対処が必要な事案は直截的な表現をし、討議と時間を要する重要事案は、興味・問題意識を喚起する為に婉曲な表現とする等、言葉と語句の使い分けを行いそれなりの効果を得てきたと思っている。

様々な知識や学問を極める為、教科書的な本を読むことは、大切である。然し乍ら、種々雑多な本の1冊、更

には何十冊、何百冊、何千冊を読んだ後に、知らず知らずにその中の面白味や今まで知り得なかった世界をほんの少しでもお裾分けを貰う事は、本を読む大きな楽しみであり、それが生かせれば更なる余得だろう。

是非、同窓生諸氏とりわけ若い方々には、ジャンルを限定せず様々な本の濫読（乱読）をおすすめしたい。

私の秘かな楽しみ

昭和63年電気科卒 ト部 宣行



皆さんは、数独あるいはナンバープレイスと呼ばれるパズルをご存知でしょうか。9×9の升目に1から9の数字を配置していきませんが、縦、横、3×3の升目の中に同じ数字は1回しか使うことができないものです。私はこのパズルを少し違う楽しみ方をしています。PCを利用してこのパズルを解かせるのですが、それだけであれば、VBAのプログラムを作れば比較的簡単にできます。私の場合は、Excelの関数のみを利用してこのパズルを解く方法を考えています。大抵の問題はわかっている部分の数字を入力すると、立ち所に答えが表示されますので、パズルを解く楽しみは全くありません。しかし、たまに難問に出くわすと最後まで答えを出さずに終わってしまいます。この時にパズルを解く仕組みを改良して、どうしたら答えが出せるようにできるかを考えることがまた楽しいのです。

使う関数は、お馴染みのifやmidなどを始め、vlookup、countifなどのデータベースを扱うときによく使う関数や、何故かべき乗を計算するpowerや、剰余を計算するmodなどの数学の関数なども駆使し、全部で15種類の関数を使用して答えを出します。

今日もまた、難問が出てきました。どうやったら答えが出せるか考えると寝付けられなくなりそうです。

事務局紹介

母校に戻って

昭和56年電子科卒 長谷川 清隆
(英語科教諭)



都立高校の英語教師を21年間務めた後こちらに着任し、早9年が経ちました。同窓会の事務局に混ぜていただき幹事の皆さまとの交流を通して学ぶことの多い毎日です。

世の中が急速に国際化していく中、我々の仕事も時代に合った内容が求められます。今、生徒たちに必要な英語力とはどのようなものか、そしてそれを身に付けさせるために我々は何をしたらよいのか、「科学技術高校」に求められるものは何なのか、…試行錯誤の毎日です。生徒だけでなく、教員も悩みながら日々を送っています。

母校の生徒たちは皆、よく頑張っています。私が在学していたころと比べると学校はすっかり様変わりしましたが、自分の道を切り開こうと逞しく生きている生徒た

ちの姿は昔と変わりありません。高校生活はたった3年間ですが、多くの人にとって自分の将来に直結するという意味では非常に大切な3年間です。その3年間を生徒たちにとって少しでも有意義なものにしてもらうために、今後も生徒たちと、楽しく、そして一緒に悩みながら、ここ田町のキャンパスで共に歩んで行きたいと思えます。

同窓生の皆さま、これからも母校を暖かく見守っていただき、引き続き応援していただけると有難く思います。そして芝浦工業会への積極的なご参加をお待ちしております。

幹事募集

芝浦工業会は、会員6000名の会務を幹事会が運営しております。幹事会には、総務、財務、広報、データ管理の4委員会があり、幹事が何れかの委員会に属して会務を遂行しております。新たな幹事を求めています。ぜひご参加ください。宛先アドレス：soumu@shibaura.gr.jp

芝浦工業会 幹事会

課題研究探訪記

広報委員会 細田 征彦

本校では、2年生になると「応用化学」「情報システム」「機械システム」「電気電子」「建築デザイン」の各分野を選択し3年生になると個人またはグループで研究テーマを決めて課題研究を実施する。大学の卒業論文に値するのがこの課題研究ではないでしょうか。研究も世の中の出来事や技術革新、流行などを敏感にとらえたものが多く、学外コンクールで優秀な成績を取める研究もあります。今回も大変ユニークな研究が目を引きました。

応用化学分野

電通科卒業の筆者にケミカルの文字は苦手です。そんな者でも思わず見入ってしまうほど、パネルによる説明はわかりやすく化学への興味を持たせてくれます。



論文コンテスト受賞作品と発表者の一人

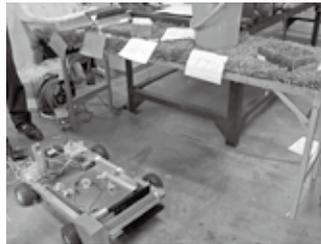
今回の研究から、東京理科大学の同窓会が主催する「坊っちゃん科学賞」（高校部門の研究論文コンテスト）に応募し、見事に優秀賞を獲得した研究グループがありました。ポスター発表の内容はさすがでした。

坊っちゃん科学賞とは

東京理科大学の同窓会が主催し、東京理科大学共催、関東地区教育委員会・関東地区高等学校長協会他が後援し、科学技術、環境・生態保護、災害、省エネ関係などの研究テーマへの個人・グループでの研究成果の論文を審査し、表彰と発表会を開催している

機械システム分野

今回も発表会場は見学者の人波が途切れる事なく、発表者も熱心に説明していました。研究も授業内容から更に各人の力で発展させたユニークな研究が目を引き



人工芝掃除機の実演

きました。人工芝グラウンドに着目した人工芝掃除機、別掲の和菓子フードプリンタ、探索ロボットなど、近年になく完成度の高い研究が並びました。

世界初の3D和菓子に成功

機械システム分野の3年生4名が課題研究として、3Dプリンタを使った和菓子作りに挑戦し、見事に成功し文化祭で人気を集めていました。樹脂を押し出して立体物を作る3Dプリンタは、最近では多方面で話題になっています。今回の研究では3Dプリンタの一



3Dプリンターで甘いモンブランを

部を改良し、注射器を取り付けてノズルから「白餡」が出るようにしたもので、いろいろな形のネリキリ菓子が出力できます。

ノズルを替えたり、プログラムを書き換えたりと5ヶ月にわたる試行錯誤の末に完成し、東京ビッグサイトで開催された「メーカーフェア東京2014」にも出展し、話題を集めていました。限られた製作費のなかで、オープンソースハードウェアを元に、簡単な改良で開発に成功したことでさらに実用化に進めていけると楽しいですね。

電気電子分野

強電から弱電まで幅広い分野ですが、目に見えない電波を扱う研究では視覚に訴える工夫をしたりして見学者の興味を引いていました。



電子楽器、ライントレースの車、ソーラパネルの研究など、現代社会のトレンドに合わせた課題で楽しませてくれました。こちらは会場が分かれています。音を出すものや動くものに関心が集まっていました。

情報システム分野

この分野の課題研究は、プログラミングソフトや解析エンジンなどの応用の多様性により、毎年変化しており、前回はハード的な機器開発も数点ありましたが、今回はアプリケーションソフトを応用した研究開発が目立ちました。情報技術の進歩は目覚ましいものがあり、学習意欲と、この分野が好き、という感性がないと続かないのではないのでしょうか。見学しながら自身の在校時代を考えてしまう筆者です。



建築デザイン分野

今回はデザイン分野と構造分野の発表会場を分けたため、非常にまとまりのある展示となっていました。

構造系ではコンクリート材に関する研究が多かったが、現代社会ではコンクリートの強度や腐食による建造物の耐震問題があり、今後も重要な研究になるでしょう。

デザイン系は大学等が主催するコンペ出品作が大半を占めていました。特にアイデアコンペ出品作は発想がユニークな作品が多く興味を持って見る事ができました。



デザイン系の発表会場

第10回弟燕祭レポート

———母校文化祭に同窓会が参加／特設の放射線コーナーに人気

2014年10月4日から5日に母校で文化祭（第10回弟燕祭）が開催されました。

今回もPTA会場にて同窓会コーナーを設けていただき、母校歴史スライドの上映と、2年ぶりに昭和29年卒の油井氏の協力を得て、放射線知識の実演を行いました。母校の歴史スライドは前回から動画も加え、一上映20分を超えるほどになり、BGMも保護者の休憩の場を和らげていました。（広報・細田記）

同窓会コーナー

出色は、油井氏の「おもしろ科学・放射線を見よう！」のコーナーでした。ご自分でドライアイスを用意され、霧箱のなかで発生する放射線を実際に目で見られるようにしたものです。昭和63年卒のト部氏も説明員に加わり見学者に対応。放射線を目にする機会が無い見学者には大変好評で、午後になると休む間も無いほどの人気でした。



同窓会の出展の様子



不思議？放射線が見えた

芝浦工業会会長賞は「極」（機械システム分野）に

5分野の3年生が課題研究を文化祭で発表しています。2年前より同窓会では優秀な課題研究（分野）に会長賞を授与しています。

昨年は審査の結果僅差ではありますが、機械システム分野「極」が受賞。世界初の「3D和菓子製造機」（別掲）など、意欲溢れる研究が多く次のステップが期待されるほどでした。僅差の次点は応用化学分野でした。素材・環境分野で各グループとも学習成果を高めた研究をされています。発表ポスターも毎年レベルが高くなり、学外コンテストで優秀な成績を収めるほどで、化学の世界を楽しませてくれました。

台風の影響で中止された表彰式は、11月7日に行われ、金子会長より芝浦工業会会長賞が授与されました。在校生の知識とアイデアにいつも驚かされています。本年の課題研究も楽しみです。



「ものづくり」を極める！



会長賞授与の様子

弟燕祭のアーチにアイデア

毎年文化祭でお客様を迎える校門の入門門ですが、昨年は合板の木地そのままのシンプルで有りながら工法に関しては大変アイデアのあるアーチでした。釘を使わないハメコミ式で、組立分解が容易にできていました。今回の文化祭のテーマが「匠」で、実行委員会がまず実践したのでしょうか。



第10回弟燕祭のテーマは「匠」、ものづくりをメインに各分野で趣向をこらした展示やアトラクションが実施され、来場者を楽しませてくれました。恒例となった国際交流では、タイとフィリピンの生徒が自国の紹介とアトラクションで参加。課題研究展示も各分野とも見ごたえが十分で、アイデアと技術力の高さに驚かされる研究もありました。飲食関係でも、大好評の「焼き鳥」の復活や、のどごしの良い「うどん」など、B級グルメ田町版開催という感じでした。

課題研究以外のアトラクションで目をひいたのは、段ボールでドームを作成したプラネタリウムです。教室の半分以上を占める大きさで、段ボールを球体にするための苦労は大変だったようです。段ボール製造大手企業の「レンゴー」の協力を得て見事なドームとなり、上映時間によって異なる星座が鑑賞できるなど好評でした。



見事な段ボールプラネタリウムは大入り満員

また、最近の鉄道ブームを反映して鉄道研究同好会の展示も例年以上に来場者が多く、部員も張り切って保有する車両をフ

ルに動かしていました。

吹奏楽部の体育館での演奏も、近年のブラバン人気も影響して多くの聴衆を集めていました。毎回文化祭に合わせて学校説明コーナーを設けているため中学生との親子連れも目立ち、興味深々に課題研究発表を見ていました。本年も文化祭で会えることを期待していますよ。

2日目は残念ながら台風接近の影響で雨となり、大事をとり1時間ほど早めた終了となりましたが、楽しませてもらった錦秋の週末でした。



鉄道模型は大人も真剣に

編集後記

本35号より横書きとして新たに発刊しました。昨年11月の総会には記事にもありますようにたくさんの会員の出席がありました。第2部の懇親会にだけ参加された方も多く活況を呈しておりました。しかしながら出席者層は60代以上が半数以上です。4、50代の若手の参加が期待されます。

桜の便りもそろそろの頃、花を愛で一献を楽しむ季節ももうすぐそこです。次号は6月1日発行の予定です。

芝浦工業会会報 第35号
芝浦工業会広報委員会

平成27年3月1日

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

☎080-5502-0541

発行人 金子 聡 編集人 小林恒男 印刷所 (株)静和堂